

平成 21 年 11 月

ベランダのミニ菜園も茎立てる  
弁当の林檎のうさぎの耳尖る  
防寒のいでたちですね猫柳  
暴虐の滝水滝の壺犯す  
帽子屋の鏡に映し夏帽子  
豊満と言はむ色白のお大根  
飽和状態の鬱梅雨の空見上げ  
ぽおんと背なを叩かれ入学試験の子  
ほろ苦きものに初恋つくづくし  
本日の話し相手は冬の海  
本日は春風駘蕩象の鼻  
ホンモノの夜長だモノオトひとつせぬ  
マイペース天道虫のせかせかは  
まだ咲かぬ蒲公英どれも低姿勢  
待受けの画面に咲かせ草の花  
真つ四角入学試験の消しゴムは  
松茸の欠片発見茶碗蒸  
身重感熟しきつたる糸瓜にも

みずうみのおもてを磨き寒月光  
みだれ萩抱き起こすときこぼれ萩  
蓑虫の蓑蓑虫の駐在所  
蚯蚓腫れの蚯蚓に季節感あらず  
耳栓をせねばなるまい百千鳥  
見る見る乾く大根の黒い土  
見渡すかぎりを一面と言ひ麦の秋  
虫干の途中の一書読み耽る  
ムシャムシャのあとのムニヤムニヤ豊の秋  
無職とて御用始の日は寂し  
むずがゆし蝸蚪に手足の生えかかり  
持ち家を今宵は虫の宿として